



2019年度 公開講座実施模様について

研修部



1. はじめに

情報通信エンジニアリング協会では、総務省主催の2019年度「情報通信月間（5月15日～6月15日）」に合わせて、一般の方を対象に情報通信エンジニアリング事業について、理解をより深めていただくことを目的に公開講座を開催しました。

東日本研修センタと西日本研修センタで開催した公開講座の概要を紹介します。

2. 東日本研修センタでの開催

(1) 講座名 「ブロードバンドサービスを支える情報通信設備の紹介」

(2) 実施日 2019年5月31日（金）

(3) 参加者数 10名

(4) 内容

① 情報通信建設事業の紹介

情報通信設備等を紹介する前段として、情報通信建

設業界の位置づけおよび主な通信設備構成と各分野の工事模様について、説明を行いました（写真1）。

② 情報通信設備およびフレッツテレビの概要説明

ブロードバンドサービスを支える情報通信設備および光サービスの1つであるフレッツテレビの設備概要について、座学および実習室の研修設備を利用して説明を行い、その設備を構築する技術（光ファイバ接続）の実習体験へ展開しました（写真2）。

③ 各種光ファイバ接続の体験と接続の正常性の確認

光ファイバ接続体験では視聴中フレッツテレビの光回線を6カ所切断し、参加者全員で分担して6カ所の再接続を実施しました。

光ファイバ接続の方法として、融着接続器による方法と組み立てコネクタによる接続を実施しました。

そして、再接続の正常性をフレッツテレビが正常に視聴できるか、否かで確認していただきました（写真3）。



写真1 情報通信建設事業の紹介



写真3-1 融着接続の体験



写真3-2 組み立てコネクタ接続の体験



写真2 フレッツテレビ概要および実習室の研修設備説明



写真3-3 フレッツテレビの視聴確認

3. 西日本研修センターの開催

- (1) 講座名 「VR（バーチャル・リアリティー）による危険体感」
- (2) 実施日 2019年6月5日（水）
- (3) 参加者数 7名（専門学校講師・教育事業関係・情報通信メーカー等）
- (4) 内容

VR（バーチャル・リアリティー）機器を活用し通信設備工事での「安全向上への取組」を紹介する公開講座と位置付け、現実に近い体感を通じて、危険をより強く認識することで事故防止につなげるものです(写真4)。



写真4-1 参加者集合写真



写真4-2 安全の取組み、VR概要説明

体感事例：「はしご昇降コンテンツ」

現実では体験できない「はしご高所からの転落」を再現し、転落防止機具の装着、梯子の立てかけ角度（75度）の確認等の重要性を認識していただきました(写真5-1・2)。

他に、鉄塔作業体感、電源設備短絡事故体感を実施しました(写真6・7)。

4. 参加者の主な感想

- (1) 東日本研修センターでの講座
 - ・情報通信建設事業の説明、座学、実習室の研修設備

- ・見学、実習体験と展開し分かり易い講座であった。
- ・光ファイバを現場で接続等、考えた事もなかった。さらに、その接続のために簡単に使える精密なツールや治具を作業者のために開発する英知に感心した。
- ・実機による光ファイバ接続体験を通じて自社でも外注から内製化を今後検討したい（放送設備工事従事者）。
- ・家庭で利用しているフレッツテレビについて設備構成としてのつながりを知る事ができた。さらに光ファイバ接続と貴重な体験であった。

(2) 西日本研修センターでの講座

- ・VRによる実際に近い体験ができて良い経験になった。
- ・現場での仕事はないが、日頃から危険について考えるべきと気付いた。
- ・VRで実際に作業しているような感覚で安全について学ぶ事ができた。
- ・安全帯の必要性、1つの手順ミスで重大な事故につながるということを知った 等。

<感想・要望等>

- ・体験型の講座が良かった。
- ・実際の設備見学等の公開講座もやっていただきたい。
- ・次回も見学等があれば参加したい 等。

5. おわりに

東日本研修センターでの公開講座では、座学・見学・体験を通じて、西日本研修センターでの公開講座では、VRによる安全作業・危険体感を通じて、情報通信エンジニアリング協会の取組みについて、PRができました。

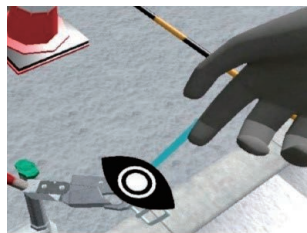


写真5-1 体感内容（物をつかんで、動かす、はなす、目視確認、はしごを昇る）



写真5-2 はしご昇降転落体感



写真6 鉄塔作業体感



写真7 電源設備短絡事故体感